



京セラ株式会社 2022年3月期 第1四半期 決算説明会
(2021年7月29日実施)

代表取締役社長 谷本 秀夫 スピーチ

<1. 2022年3月期第1四半期 決算概要>

当第1四半期の売上高は、半導体関連市場等の主要市場での需要増を背景に、前年同期に比べ32.7%増加の4,207億円となり、第1四半期として過去最高を更新しました。利益についても増収効果により、大きく増加しました。営業利益は327.5%増加の324億円、税引前利益は79.1%増加の545億円、当期利益は82.1%増加の408億円となりました。

設備投資額や有形固定資産減価償却費、研究開発費については、戦略製品の増産対応及び新製品の開発強化に積極的に取り組んだことから、それぞれ増加しました。

平均為替レートは、対米ドルは前年同期に比べ1円円安の109円、対ユーロは14円円安の132円となり、これにより売上高は約130億円、税引前利益は約45億円、押し上げられました。

<2. 2022年3月期第1四半期 事業セグメント別売上高>

事業セグメント別の売上高は、当第1四半期は全てのセグメントで2桁の増収となりました。

<3. 2022年3月期第1四半期 事業セグメント別利益>

事業セグメント別の利益は、増収を主因に全てのセグメントで大幅に増加しました。

<4. 2022年3月期第1四半期 事業セグメント別業績(1) コアコンポーネント>

「コアコンポーネント」は、産業・車載用部品事業において、半導体製造装置向けファインセラミック部品や車載カメラの需要が増加したことに加え、半導体関連部品事業において、5Gや自動車関連市場向けにセラミックパッケージ及び有機基板の需要が増加したことにより、増収となりました。

戦略製品の生産能力増強に伴い減価償却費は増加したものの、増収を主因に増益となり、利益は約2.5倍、利益率は9.4%へ改善しました。

<5. 2022年3月期第1四半期 事業セグメント別業績（2）電子部品>

「電子部品」は、AVX Corporation（以下、AVX）の業績回復を主因に増収増益となりました。自動車関連市場や産業市場等の回復に加え、5G 及び半導体関連市場での需要増により、各種コンデンサやセンサー及び制御部品、並びに水晶部品の売上が増加しました。利益は、増収や原価低減に加え、製品ミックスの改善により大幅に増加し、利益率は約 15% へ向上しました。

<6. 2022年3月期第1四半期 事業セグメント別業績（3）ソリューション>

「ソリューション」は、機械工具事業では、前年同期に需要が低迷した切削工具の回復に加え、空圧・電動工具の需要も堅調に推移しました。また、ドキュメントソリューション事業においては、プリンターやMFP、消耗品の需要の回復が見られました。利益は、増収及び自動化の推進等により生産性が向上したことから大幅に増加しました。

以上が当第1四半期の概要です。続いて、通期の業績予想についてご説明します。

<7. 2022年3月期 業績予想>

通期の業績予想につきましては、4月の公表数値から変更しておりません。

当第1四半期は、通期業績予想の達成に向けて順調な滑り出しとなり、第2四半期以降も5G 関連部品や半導体製造装置用部品などの需要増加が見込まれます。一方で、半導体不足による様々な市場への影響が懸念されるため、通期業績予想につきましては第2四半期の状況を踏まえて改めて検討する予定です。

<8. 2022年3月期 事業セグメント別 売上高予想>

<9. 2022年3月期 事業セグメント別 利益予想>

8 ページ、9 ページに記載の事業セグメント別業績予想につきましても、現時点では変更はありません。引き続き、受注獲得及び生産性の向上に努めてまいります。

新担当役員のご紹介

<コアコンポーネント>

取締役 執行役員常務 触 浩 スピーチ

私はこれまで、自動車部品事業や半導体部品の有機材料事業等、部品事業を中心に担当してまいりました。コアコンポーネントセグメントには、ファインセラミック部品やセラミックパッケージなど、京セラ創業の礎となった製品をはじめ、車載用カメラモジュールや燃料電池用 SOFC セルスタック等、機能性を高めたモジュール製品を幅広く展開しています。

4月から各部門の状況把握を進めていますが、まずは直近の半導体関連の急激な需要拡大への対応が最優先課題です。また、将来に向けてセグメント内の連携を強化するため、部門横断のプロジェクトをスタートしました。コア技術の強化、新規テーマの探索、人材の育成や活性化等の教育にも力を入れてまいります。さらに、仕事の仕組みを見直し経営基盤を強化することで、継続的な成長を目指します。価値ある製品を生み出し、これまで以上に製品やモノづくりに自信と誇りが持てるように、各部門と力を合わせて一生懸命取り組んでまいります。

<電子部品>

執行役員常務 ジョン・サービス スピーチ (ビデオメッセージ)

私は現在 AVX の CEO 兼社長でもあります。京セラ電子部品と AVX の強みを発揮できる組織を構築し電子部品セグメントの発展に努めます。本日は決算説明会に出席できず残念ですが、直接皆様にお会いし事業戦略をご説明できる日を楽しみにしております。

取締役 執行役員常務 嘉野 浩市 スピーチ

私はこれまで電子部品事業で営業、マーケティング、製造事業部を担当してまいりました。また、米国子会社の AVX が京セラグループ入りした 1990 年から AVX に出向し、10 年強の海外勤務を経験しました。ジョン・サービスとも 30 年来の間柄で、お互いの考えはよく理解しています。ここ 10 年は、M&A を含め、グループ企業の経営全般をサポートする関連会社統括本部等を担当してまいりました。

電子部品セグメントは、現在 AVX と京セラの電子部品事業のシナジー追求を最優先に取り組んでいます。その具体策として、2021 年 10 月より新ブランドのもと、欧米を皮切りにグローバルに販路の統合を行います。また、製造や技術部門においても、今後お互いの強みを活かして事業を運営することで、成長著しい 5G や半導体、自動車、データストレージ市場に加え、AVX が得意とする医療、産業、エネルギー等の高付加価値市場の重点分野において、マーケットシェアの獲得と収益力の向上に努めてまいります。

＜ソリューション＞

取締役 執行役員常務 伊奈 憲彦 スピーチ

私はこれまで京セラドキュメントソリューションズグループの経営を担ってまいりました。ソリューションセグメントは、機械工具、ドキュメントソリューション、コミュニケーションなど多様な事業の集合体です。この4か月間、各事業の内容や取り組み状況、強みや課題の把握に努めてまいりました。

現在は、事業間の交流をこれまでとは違ったレベルで促し、さまざまな意見や方法を共有し、それぞれの事業を強化しています。そして、京セラフィロソフィーを基軸に、もともと京セラの強みである柔軟な考えと創意工夫、チャレンジ精神で、既存の枠にとらわれることなくソリューションセグメントの多様性を活かし、経営資源を組み合わせることによって、社会、そしてお客様の課題解決となるソリューションを多数産み出し、持続的に自立成長できるビジネスの構築に取り組んでまいります。

＜コーポレート＞

取締役 執行役員常務 青木 昭一 スピーチ

私は経理を中心とした経営管理部門の運営を行ってまいりました。今般の組織再編に伴い、ただいまご挨拶しましたセグメント担当役員のもと、これまで以上に事業間を超えた経営リソースの相互活用が進むとともに、新たな事業展開が加速することが見込まれます。このような経営改革を進めるにあたり、担当していた経営管理部門に加え、総務、人事、法務などの主要な管理部門が一体となって包括的にサポートを図るため、各部門の機能や連携強化、既存の枠組みにとらわれず、京セラグループの全体最適に向けた運営を行ってまいります。

以上

将来事象に関する注意事項

当資料には、将来の事象についての2022年3月期第1四半期決算説明会開催日（2021年7月29日開催）時点における当社グループの期待、見積り及び予測に基づく記述が含まれています。これらの将来の事象についての記述には、既知及び未知のリスク、不確実な要因並びにその他の要因が内包されており、当社グループの将来における実際の財政状態及び活動状況が、当該将来の事象についての記述によって明示または黙示されているところと大きく異なる場合があります。